



滋賀短期大学 学 報

2011. 12. 1

No. 70

〒520-0803 大津市竜が丘24-4 滋賀短期大学 広報・図書委員会 電話(077)524-3605

ホームページアドレス <http://www.sumire.ac.jp/tandai/>



純美禮祭ステージ

地震・津波・台風災害からの復旧・復興を願う

学 長 板倉 安正



日本は、いま、東日本大震災からの復旧・復興が大きな課題になっています。日本私立短期大学協会でもその対策が進んでいて、小生も常任理事会に出席し、会長以下多くの方々が懸命に取り組んでおられる様子を身近

に拝見して頭の下がる思いをしています。現段階では、本学はボランティア派遣など直接的な関与はできていませんが、できる限りの協力は厭わないようにしたいと思います。このことに関わって、前号には教育の大切さに触れました。学生がしっかりと学び、知識・技能を身に付けて社会に出て働くこと、そのことが長い目で見れば、復興の大きな力になる筈です。若い人たちの学びは復興の礎です。教育に携わる者として、このことに心を新たにしているところです。

以前、主に京都大学防災研究所の方々と土砂災害、土石流の動態解析及び検知に関する研究に携わっていた経験があります。わずかな経験の中から、自然の猛威、規模の大きさに驚愕しながらも、何とか自然災害に立ち向うことができないかという思いを抱いていました。思いだけで事は済むものではないと知りつつも、東日本大震災や台風12号災害からの復旧・復興を心から願って、防災の話しをもう少し進めることをお赦しください。

人は誰でも日々の生活が安全で安心できることを願っています。恐らくこれは人類が誕生して以来の悲願であろうと思います。日本各地に点在する多くの神社は、古いものほどその多くの起源は安全・安心の祈願であったと推測されます。古来、地震、津波、噴火、暴風雨、洪水、天候不順、旱魃、疫病、野獣の襲撃など、人は多くの禍に曝されていました。現在、完全ではないにしろ、科学技術はこれらの災害をある程度は軽減することを可能にできていると思います。ただそれが十全でないことが、却って今の安全・安心をむつかしくしていると言えなくもないのかもしれませんが。

自然は複雑で、その力とはとてつもなく大きく、自然現

象を完全に解明し、事象を確実に予測・予知することなどできません。したがって、安全・安心を願うことはできても、それを完全に保証することは難しいということになります。自然災害に立ち向かう場合、人間の持つ僅かばかりの技術力で、どこまでの範囲のどの段階まで安全・安心を保証していくことが可能なのかを論じていきます。現段階では、観測によるデータを基に確率予測論で事象を掘り下げて、コンピュータシミュレーションでどの程度の保証が可能か、という進め方が常道になっています。現在の科学技術に頼って全ての事象に機器やシステムで挑戦するとき、十分に検討を加えて万全に設計し最新の技法で細心に製作された機器やシステムでも故障することがあります。そして、厄介なことにそれを扱う人間も、注意に注意を重ねていても操作を間違えるということも生じます。フェイルセーフやフルブルーフの方針が練られて、これへの対策は進み、その度合いは深まりつつあります。しかしながら、万一トラブルが発生した場合は、その時点での英知を絞って全力で対応し、道を切り開いていくしかないように思います。

一般に科学技術という場合、機器やシステムのみを指すことが多いようです。機器やシステムだけから議論するのではなく、それらを製作し操作する人間、そしてその科学技術の恩恵に与る人・社会をも含めて、さらには歴史的な経験からの考察をも加えて、総合的に安全・安心について考えていく必要があると思います。寺田寅彦は随筆の中で次のように述べています。関東大震災や室戸台風の経験を踏まえて、天災に立ち向かう場合、昔の人は過去の経験を大切に保存し蓄積してその教えに忠実であったと記述し、「今回（関東大震災や室戸台風）の被害の大きさは、やはり文明の力を買いかぶって自然を侮り過ぎた結果からそういうことになったのではないかと想像される。」（「天災と国防」、講談社学術文庫2057、p16、2011）と指摘しています。

自然の中にいる人間が、開発した僅かばかりの技術で自然災害に立ち向かおうとしているのが現実であり、まだまだ心もとないものであることを十分に認識すべきです。防災には、自然に対する人間の素直さ、謙虚さが改めて問われているように思います。そして、復興の礎となる教育にも、人間と自然に対する素直さが基本になるのではないのでしょうか。

製菓衛生師資格が在学中に取得可能に

生活学科長 教授 成田 巳代子



生活学科・製菓マイスターコースでは、製菓衛生師の資格取得を目標としていますが、従来は在学中に資格取得のための勉学をし、卒業後、受験をして取得するかたちになっていました。これは、2年間で製菓に必要な理論と実習、ならびにインターンシップをゆっくり学べる利点があり、それなりに効果はありました。しかし、卒業時には資格が取れていないことで就職率が伸びないこと、また、就職した者も試験の日に休めない場合があること、大学への可否通知がなく資格取得者の人数が把握できないこと等の問題も多くありました。

そこで、平成23年度入学生より、1回生で製菓衛生士受験資格を得るのに必要な科目をすべて履修し、2回生で受験、卒業時には資格を持って就職できるようにカリキュラムの編成をしました。

受験に必要な実習のすべては1回生に入り、インターンシップも1回生の春休みになる等、全体として、学生生活の前半が大変忙しいカリキュラムとなりましたが、その分2回生では、製菓応用実習を新設し、製菓マイスターコースでの集大成ともいえるべき学びを充実させました。

製菓マイスターコースに学ぶ学生にとって、今回の改編が良い結果をもたらすことを信じています。

ビジネスコミュニケーション学科の新資格

ビジネスコミュニケーション学科長 教授 森田 育代



ホスピタリティビジネスコースの新資格

1. 日本医師会認定医療秘書
2. 全国大学実務教育協会のメディカル秘書

平成24年度からホスピタリティビジネスコースの資格が大幅に変わります。これまでの資格に替えて日本医師会認定医療秘書と全国大学実務教育協会のメディカル秘書の2つの資格が取得できるようになりました。滋賀県医師会との協定を締結後、本学が日本医師会認定医療秘書の養成校として認定されました。医学基礎教科や秘書専門教科などの幅広いカリキュラムを学修し、天津市の協力病院で実技演習を受けた後、認定試験に臨みます。

この資格は医療現場で医師の事務作業を補助する医療秘書や医療事務のエキスパートを目指すものです。

また、全国大学実務教育協会の秘書士（メディカル秘書）はホスピタリティビジネスコースで必要な医療秘書・事務の専門科目教科を修了し、申請後、取得できます。

両資格は医療関係機関の事務作業現場で即戦力を発揮し、活躍するのに大いに役立つものと信じます。

ITビジネスコースの新資格

ITビジネスコースの学生は、本年度入学生からウェブデザイン実務士（全国大学実務教育協会）の資格が取得可能となりました。この資格はインターネット技術に関する知識に加え、ウェブサイト構築に必要とされる、デザイン、プログラミング、動画利用などの手法にも精通し、WEBコンテンツ制作ができることを証明するものです。将来、ウェブデザイナーとして就職したい学生は、取得しておくべき資格です。すでに1回生は、この資格取得に向けて、関連した授業を受講しています。さらに、今年度、新たに最新のコンピュータ設備も導入し、学生は充実した環境で熱心に情報系の勉学に取り組んでいます。

学外実習報告

栄養教諭教育実習を終えて

生活学科 食健康コース（栄養士養成課程） 2回生 高峰 あかね

私は、京都市内の小学校へ栄養教諭の教育実習に行きました。心の準備ができていないまま実習を迎えました。1年生とランチルームで一緒に給食を食べましたが、思っていたより野菜などの好き嫌いは少なく、「これを食べたら大きくなれるよ！」と言うと一生懸命食べていました。また昼休みに一緒に遊んだりしているうちに、不安はいつの間になくなっていました。

研究授業は6年生の保健体育の「生活習慣病」について、実習生2人で行いました。授業の内容と食分野を関連付け、実習校の栄養教諭の先生のアドバイスも参考にして、児童の反応を考えながら、2人で協力して指導案を完成させました。電子黒板や書画カメラを使って血管の映像を見せたり、劇風に説明をしたり、児童の興味を引くために、チームティーチングだからこそできる様々な工夫をしました。

授業は大変でしたが、先生からも褒めていただき、とても嬉しかったです。本当に充実した5日間となりました。



達成感を得られた製菓インターンシップ

生活学科 製菓マイスターコース 2回生 寺嶋 渚

不安と緊張が募る中、初めて本格的に体験したインターンシップ。インターンシップを体験する前、私は、製菓関係の仕事は重労働で、好きでないとできないものだと思っていました。実際、やらせて頂いた仕事（補助）は何時間も立ちっぱなしで、作業に慣れていないこともあり、少し辛く感じることもありました。ですが、何度もやっていくうちに感覚を掴むことができ、素早く綺麗にできるようになりました。自分の任された作業を褒めてもらえた時は疲労感がなくなり、満足と達成感でいっぱいになりました。

インターンシップを体験する前と後では気持ちの持ちようが大きく変わったと思います。今回の体験を通じて、どんな仕事をするにしても、手際の良さや責任感が大事なのだということを改めて実感しました。本当に良い経験になったと思います。将来はこのインターンシップで

学んだことを思いだしながら、職場で仕事に生かしていけたらいいと思います。



児童館実習で学んだこと

幼児教育保育学科 2回生 浦野 有砂



この夏休みに、大津の児童館へ実習に行かせていただきました。私は児童館を利用したことがないので、「児童館は、乳幼児や中高校生も利用するけれど、主に小学生が遊びに来ている」というイメージしかありませんでした。保育所

や幼稚園での実習と違い、主に小学生と関わる時、どのように関わっていけばいいのか、一緒に何をして遊ぶのかなど、実習前は不安と緊張で一杯でした。

実習開始の頃は、小学生になかなか声をかけることができず悩みました。しかし職員の方から、自分から声を

かけ遊びに入っていくということを教えていただき、思い切って声をかけるといっしょに遊ぶことができました。

小学生達とドッジボールやトランプなど様々な遊びを通し関わっていく中で、子どもと関わることの難しさを実感しました。それは先生を独占したがる子どもへの対応です。独占したがる子どもとだけ遊んでいるのは、その子のためにも良くないので、「先生は違う子とも遊びたい」とはっきり言うことも大切であり、その場を離れたりするなどの対応をすると良いと指導をしていただきました。その後の実習でその指導を活かしきれなかったのですが、今後の活動ではここで学んだことを活かしていきたいと思いました。保育所とはまた違った経験をさせていただき有意義な実習となりました。

幼稚園教育実習－言葉がけの大切さ

幼児教育保育学科 2回生 平尾 夏世

9月の幼稚園での教育実習で、特に印象深く学んだことは、子どもへの言葉がけの大切さです。言葉がけによって、子どもは興味を持ち、頑張ってみようとするのです。

一日の責任実習をさせていただいた時、子どもたちに声をかけてもあまり聞いてもらえず、どうしていいかわからないまま活動をすすめました。「言葉がけは難しいことです。子どもが興味を持ち、やってみたいと思えるように、また、自分から保育者のところへ集まろうと思えるような工夫が大切です。」と、反省会でご指導をいただきました。子ども自身が、次に何をするのか見通しを持つことができ、期待が持てるような言葉がけでないと、子どもは行動してくれないのだと思いました。その後の実習中、子どもと砂場で遊んでいて片付けの時間になりました。片付けるように言っても聞いてくれないので、この前のご指導を思い出して言い方を変えてみました。「食べるのに使ったお皿だから先生と一緒に、洗いに行こう。」と誘いました。すると素直に砂で汚れたおもちゃを洗い始め、片付けてくれました。片付けも遊び

の一環として言葉がけをしたのが良かったのだと思いました。お姉さん先生の私が率先して楽しく片付けている姿を、子どもが見ることも大切だと思いました。

短大での残りの学習では、実習での子どものイメージを持って有効な言葉がけができる力もつけたいと思っています。



実習生2人が制作した壁面構成の前で
右 山口由紀子園長（本学卒業生）
中央 筆者
左 三浦明子先生（実習担当）

園児の虫とりを見守る筆者

本学の安全・安心のために

総務課長 高田 繁蔵

本学では、平成22年12月から学内外における学生の安全を確保するため、登・下校時の国道1号線・竜が丘交差点での誘導、本学構内及び周辺での不審者・不審物の早期発見、並びに異常事態発生時の通報連絡等の業務委託を開始しました、又、これに並行して構内に防犯カメラの設置を行ってきました。

平成23年度に本学の方針として「安全・安心を基礎に意欲ある学びを引き出す」ことが標榜されたことから、関係委員会等において構内の安全性を更に高める対策の検討が行われ、正門において不審者等の構内への侵入を未然に防止する入構チェック体制の導入が決定されました。

そこで、去る6月から警備員を正門に配置し、警戒・監視及び構内への出入りを管理する「立哨・出入管理」の業務委託を開始しました。この「立哨・出入管理」は、入構時において学生証の提示、職員証又は駐車登録証の提示、非常勤講師等は入

構証の提示、一般外来者は住所・氏名・行き先・用務の記入等を求める内容になっています。若干、わずらわしさを感じられているかも知れませんが、他大学等でほぼ一般化されている形態です。実施後の状況については、当初に懸念していた混乱もなく、現在まで順調に推移していると思われます。

近年、全国の大学等において、しばしば学生が事件・事故に巻き込まれて、大きな痛み・被害を被っている事例が報道されています。本学ではこのような状況に着目して「学生を守るために実効性があり、且つ、継続性のある安全対策」に積極的に取り組んでいます。どうかご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



同窓会だより

同窓会 監査 北尾 満寿美

7月3日(日)短大にて、平成23年度同窓会総会・懇談会を開催いたしました。

ご出席いただきました方々には心よりお礼申し上げます。

総会終了後、毎回好評の製菓実習では、今回も南壽樹先生にご指導いただき、まるで学生時代にタイムスリップしたかのよう



に、お互いの出来具合を覗き見しながら、和気あいあいと楽しい時間を過ごす事が出来ました。

懇談会では先生方にもご参加いただき、昼食を摂りながら話に花が咲いていました。

お待ちかねのビンゴ

ゲーム(ハズレなし!)では、参加者が個々に自己紹介と近況を報告しながらゲームを楽しみました。

アンケートを提出していただいた方々から“楽しかったのもまた来年も参加したいです”と嬉しいお言葉を多数いただきました。とはいえ、会員数に比べ参加者数はまだまだ少ないのが現状です。運営会議でいつも課題となるのが“より多くの会員の方に参加していただくにはどうしたらいいのか?”ということです。

これからの同窓会をより身近で盛り立てていくためには、多くの方々のご協力が必要です。どうか皆さまの一人一人のお力をお貸しください。

それにはまず一度、短大にお越しください。懐かしい琵琶湖の景色とともにお待ちしております。

後援会だより

後援会 会長 小田 真一

朝夕めっきり寒くなりましたが、皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、日頃は後援会活動に、ご支援ご協力を賜りまして誠に有難うございます。

今年も盛り上がりました学園祭に、後援会も「いなり寿司コーナー」で参加させていただきました。本年は、最終日の一日の「いなり寿司コーナー」でしたが、役員一同楽しく過ごさせていただきました。

本年度も、卒業式に後援会として卒業生にプレゼントする

ゼミ別の記念写真作りを予定しております。

これからも、会員皆様と一緒に、滋賀短期大学を応援して参りたいと思いますので、皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



リーダーズトレーニング ～純美禮祭に向けて～

学生自治会 **大黒 将史**（ビジネスコミュニケーション学科 1 回生）

7月2日に第1回リーダーズトレーニングを開催しました。第一部は、浜大津にある明日都の4階で『みんなの力で成功させよう純美禮祭』をテーマにディスカッションをしました。学生の参加意欲を高めるにはどうしたらいいかたくさんの意見が出され、とても活発な話し合いになりました。その中で、提案された純美禮祭実行委員会を7月下旬に立ち上げ、学生自治会と一緒に純美禮祭の準備を行いました。その後、第二部として、大津港からビアンカに乗船し3時間の船旅をしました。琵琶湖の上から風景を楽しみつつ昼食を摂り、ゼミやクラブの自己紹介など参加した学生が他の学科の学生との交流をしました。

9月20日の第2回リーダーズトレーニングでは、今年度の学園祭テーマ、外部ゲストのトークショー（大東俊介さん、10月1日公表）などについて発表されました。純美禮祭実行委員会からは、ステージの新企画についても発表がありました。

リーダーズトレーニングで出てきた意見をもとに、純美禮祭のテーマを学生から公募したり、自治会と純美禮祭実行委員会が一緒になって準備をしたりと、今まで以上に実り多く、大学活性化につながるリーダーズトレーニングになりました。この良い流れを純美禮祭にもつなげ、例年以上に多くの人が参加し、楽しんでもらえる純美禮祭になったことと思います。



第45回 全国私立短期大学体育大会

今年も全国私立短期大学体育大会（全短）が8月に開催されました。本学からはバスケットボール部、バレーボール部、バドミントン部、ソフトテニス部が参加し、それぞれ優秀な成績を収めました。また、バスケットボール部キャプテンの岡田奈央さんが感想を寄せてくれました。



- ・バスケットボール部（女子） 第3位
- ・バレーボール部（女子） ベスト8
- ・バドミントン部

男子団体	優勝	
男子ダブルス	優勝	友定正登・林 慎也
	準優勝	高木雄汰・木下侑哉
男子シングルス	優勝	村田大和
女子団体	準優勝	
女子ダブルス	優勝	國友瑞貴・藤井里穂
- ・ソフトテニス部

女子団体	準優勝	
女子ダブルス	準優勝	楠岡 優・中村彩乃
	第3位	道海史佳・松本ゆずみ
	第3位	川端望鳩・居川優希
	ベスト16	池田花蓮・七里亜矢佳
	予選リーグ	森脇美佳・谷口優佳子

全国私立短期大学体育大会を終えて

バスケットボール部キャプテン

岡田 奈央（ビジネスコミュニケーション学科 2 回生）

8月8日から10日にかけて東京にて全国私立短期大学体育大会が行われました。チームとしては前年度果たせなかった“優勝”という目標を掲げて日々の練習に取り組んできました。準決勝で昨年の優勝校の奈良文化女子短期大学と戦い、惜しくも敗れ第3位という結果で終わりました。自分たちのバスケットをやり切ることが出来なかった為、目標を達成することが出来ませんでした。とても悔いが残った大会でした。

大会後さらに自分たちの目標に対する気持ちが強まりチームの意識も高くなりました。それからの練習は全短での悔しさをバネに関西リーグに向け厳しい練習に取り組みました。先日行われた関西リーグでは、“関西1部昇格”を目標に励んできました。その結果2部リーグ12チーム中3位という成

績を残すことが出来ました。全短の経験が関西リーグに生かされた実感した大会となりました。



第42回 純美禮祭

2011年11月11日・12日

第42回純美禮祭のテーマは
“WA!! ～今一つになるとき～”
たくさんの方にご来場いただき
大盛況となりました！！



学生自治会

今年は純美禮祭実行委員と学生自治会で純美禮祭の準備を進めてきました。実行委員、自治会、先生方、純美禮祭に協力してくださった方々のおかげで例年以上の盛り上がりを見せることができました。準備にはいろいろ大変なこともありましたが、純美禮祭を無事に終わらせることができて良かったです。

純美禮祭実行委員会

純美禮祭、とても楽しかったです。2日間が本当にあっという間でした。みんながいたから純美禮祭が無事に終わりました。学生自治会や他の方の協力があったからこそ成功できたと思います。このメンバーと一緒に活動できたことがとてもよい思い出になりました。ありがとうございました。

平成23年度 美しい日本語コンクール

テーマ：近江文化を通して、美しい日本語を学ぶ



国語の基礎力向上と図書館利用促進を目指す“美しい日本語コンクール”は、今年も、奥深い近江文化をテーマにしました。最優秀者へは、11月11日 純美禮祭の開会式後に、板倉安正学長より、表彰状および副賞が手渡されました。また、純美禮祭初日の子ども企画の中で、附属幼稚園の園児の方々を招いて、恒例の最優秀賞・優秀賞の6名の学生による「読み聞かせ会」も実施いたしました。

審査員【朗読部門】 板倉安正学長 實生輝先生 長谷雄一先生
【読み聞かせ部門】 森島洋一短大附属幼稚園園長 古橋紗人子教授 手良村昭子准教授
【エッセイ部門】 今関信子先生 實生輝先生

【朗読部門】入賞者

最優秀賞

上野 真実(ビジ2)『銀河鉄道の夜』

優秀賞

鵜飼 彩(ビジ1)『二十一世紀に生きる君たちへ』
栗原 紫音(ビジ1)『アルジャーノンに花束を』

【エッセイ部門】入賞者

最優秀賞

川村 風沙(幼教2)『私の住む町、膳所』

優秀賞

小野 雪花(生2)『静かな唐橋』
竹弘みゆき(生1)『近江の歴史あるお寺』
今井 春香(幼教2)『琵琶湖について』
奥村 陽子(幼教1)『愛する故郷について』
松田 咲穂(幼教1)『琵琶湖と私たち』
吉野 香(幼教1)『近江言葉を語り継ぐこと』
小田 瑞恵(ビジ2)『滋賀はどうして滋賀なのか』
滝本 彩葉(ビジ2)『京阪電車』
石崎 達也(ビジ2)『「ヨシ」という文化』

伊藤由美子(ビジ1)『琵琶湖と近江文化』
中村 安利(ビジ1)『観音の里』
脇坂明日香(ビジ1)『私の誇り』

【読み聞かせ部門】入賞者

最優秀賞

松本ゆずみ(幼教2)『おいもをどうぞ!』

優秀賞

藤川 光(幼教2)『11ぴきのねことへんなねこ』
松原 楓(幼教2)『ルラルさんのにわ』
釜山 美咲(幼教1)『バムとケロのそらのたび』
仲江 千尋(幼教1)『ちびころおにぎり なかみはなあに』
八木 茜(幼教1)『ゆきのひのゆうびん屋さん』

生活学科長賞

富田 若葉(生1)『トンガのきいちごつみ』

幼児教育保育学科長賞

田中 結麻(幼教2)『はじめてのおつかい』

ビジネスコミュニケーション学科長賞

黒川 真央(ビジ2)『こじまのもりのきんいろのがみ』

エッセイ部門最優秀賞作品

「私の住む町、膳所」

幼児教育保育学科2回生 川村 風沙

私は生まれた時からずっと膳所という町に住んでいます。昔、城下町だった頃の名残が各所にあり、風情あるところです。今は公園となっている「膳所城跡公園」は、徳川家康が関ヶ原の合戦の後、築城の名手といわれた藤堂高虎に最初に造らせた城でした。春には毎年多くの花見客が訪れる、桜の名所でもあります。膳所城跡公園に一步足を踏み入れると、少し先に琵琶湖が一望できたり、本当に昔は城があったのだと感じる石盤や瓦があったりと、今も多くの“過去”に行ける素晴らしいところです。私は時々ここに一人で来て考えたりすることがあるのですが、大好きなこの町で、現在と過去の間に立って考え事をすると、自然に自分と向き合えて素直になれるような気がします。近畿の水郷と呼ばれる程大きく、不思議な雰囲気なのに優しい、琵琶湖を見つめ、気持ちに区切りをつけます。

他にも、膳所神社や旧膳所城下町など、昔の膳所、近江の

町を感じられるところはたくさんあります。幼い頃は何も考えずにただ通り過ぎていた道一つにも、近江の人達はどういう思いで造ったんだろう、何を考えていただろう、と今ならもっと“過去”に戻れるのだと思います。

生まれてからの二十年間を、ずっとこの膳所という町で育ち、暮らしていく中には、昔の近江の人達の存在があってこそなのだとは再確認することができました。この人達が良いものをたくさん残してくれて、膳所が好きになれて、そこから大津が好き、滋賀が好き、日本が好き、と気持ちがどんどん広がっていくような気がしました。これからも、そんな近江の人達に感謝の気持ちを持ち続け、残してくれたものを守り、新たに膳所の歴史を私達も作っていきたいです。

◆今関信子氏講評

生まれ育った町の良さをすでに発見しそこで生きる筆者の日常を書きながら、この町の過去と未来に思いを向ける技法が面白い。

◆實生輝氏講評

自分の住む町のことが書かれていて良かった。もう少し史的事実を書いた方が良かったのではと思うところもある。

私の青春時代

本号からの新企画です。「青春」とは季節の「春」を表す言葉で、人生においては若く元気で、夢と希望に満ちた時代を指します。しかし、さまざまな捉え方ができるのではないのでしょうか。いろいろな方々に、それぞれの青春を語っていただきます。

私の青春時代

幼児教育保育学科 教授 古橋 紗人子

私の人生は本当にラッキーであると思う。「乳児保育」を学ぶ者とすれば、その源泉は出生前後の母子関係であり、最も重要な乳幼児期に最善の利益を与えられたからかと想像する。自分の意識するラッキーのスタートは、地元の愛知県岡崎市に保育科を有する短期大学が開学したことであろう。新設校の先生方の情熱は、本学の前川先生や中村先生のお話の端々から伺えるものと同様であった。ふと、母校をなつかしみ本学の学生にダブらせてみては時代の流れを感じている。

「児童文化研究部」に所属した私は、2期生にして部員40余名の大所帯のやりくりしに奔走し、クラブ費の予算獲得合戦（自治会活動）は白熱したものであった。禅寺での合宿。奥三河を中心とする僻地での公演活動は、5、6名でチームを組み20か所近く訪問したと記憶している。今思えば地味な活動であったが、卒業前の市民会館での公演は華やかな思い出である。怖いもの知らずとはいえ、ミュージカル？に挑戦し猛練習をしたのであった。今でも絵本や素話を読み語りながら、つい歌うクセ？は、この時から始まったのかもしれない。

本学同様、実学教育を受けた私には短大当時からの友人が多く、彼女らは今も大学教員や民営化保育所の園長として幼児教育に関わっている。教育の意義を自分の青春時代から振り返ってみれば、人の一生を導く深く尊いものと改めて考える。



中央で座っているのが筆者

私の青春時代は、現在進行形。

学務課 課長補佐 高田 伸子

青春時代とは何でしょう。電子辞書によると、「年の若い時代、人生の春にたとえられる時期」とありました。

私にとっての青春時代はいつ？ 生涯青春という言葉があります。まさに私の為にある言葉です。無二の親友には「人の2倍も3倍も人生を楽しんでいるね、羨ましい」とよく言われます。なぜそう思うのと尋ねると、きまり文句「いつも元気で楽しくてはつらつして、何をするにも一生懸命で、前向きで、男勝りで……」恥ずかしい言葉をずらずと並べたてます。

確かに、声は大きく元気に見える。年賀状にはいつも元気な高田さんパワーを分けてくださいなど添え書きがある。若き頃の履歴書には、特技・趣味欄にはスポーツしか書けないくらい運動好きで、風邪ひとつひかず体力には自信があり、元気だけがとりの私です。

この短大を卒業し、縁あって就職が決まった時、某先生から「伊藤(旧姓)さんに事務職が務まるの」という厳しい言葉を頂戴しました。あれから35年、職場環境にも恵まれ子供3人を授かり、仕事を続けられたこと。家族と親友への感謝の気持ちで一杯です。

私の青春時代は、現在進行形。生涯青春。毎日楽しく、いつも目標に向かって、Let's try!!

悲しい日、苦しい日、悔しい日、憂鬱な日、どんな日でも、

私は私自身に負けたくない。

くじけそうになる時は、親友に思いっきり話を聞いてもらって、適切なアドバイスをくれる。そして、好きなことをして、ストレス発散。

一日一日を納得して精一杯生きて生かされたい。

最後に私の大好きな言葉

「自分に打ち勝つ事は、勝利のうちで最大なものである。

—プラトニー—

さあ、次は何に挑戦しようかな!!



短期大学2回生



現在

～ 研修報告 ～

フランスにおける海外研修を終えて

幼児教育保育学科 准教授 柚木 たまみ



アルザス地方の木組みの家
(コロンバージュと言います)

フランス研修での目的は、ヨーロッパの文化・言語に直接触れ、歌曲における詩の内容の理解を深め語感を身につける事。私はフランス・アルザス地方にあるストラスブールという町で、国立音楽院に学生として在籍しました。そして様々なコンサートに参加する機会をもらい、またそれをきっかけに多くの人々と交流をする事ができました。

音楽院の若い学生との共演やフランス以外の様々な国からの留学生との交流の他に、なんと出演したコンサートの聴衆から演奏依頼を受けたり、時には食事やパーティに招待されたり等、想いもしなかった所での国際交流も広がりました。

このようなお付き合いの広がり方は、ヨーロッパではもしかしたら当たり前の事なのかもしれません。ですが、異なる国籍同士の者が出逢いお互いを理解するきっかけとなり、友情を深め、さらにその友情が大きくなって世

界平和に結び付くんだな、と強く感じずにはいられませんでした。そして、私は日本人の一人として、責任と誇りを持ち行動しなければならないという意識を改めて持つようになりました。「旅の恥はかき捨て」なんてとんでもない！外国で私のとった行為は、一個人ではなく“日本人の”行為と見なされるのですから。

日本の外に出て外国に暮らし、異国の空気を吸いながら自分の研究を深めさらに経験した全ての事は、まぎれもなく一生の宝物です。今回の研修での糧を、本学の学生へもいろいろなかたちで伝えていきたいと思います。

すばらしい機会を与えて下さり、心から感謝致します。



招かれたパーティで(浴衣姿で演奏しました)

ラオス食文化視察

生活学科 准教授 中平 真由巳

夏と秋の行き交う9月、滋賀の食事文化研究会の9名でラオスの山里ナヤン・タイ村を訪ねた。アジアモンsoon気候のラオスは国土の多くを山岳地域が占め、人口は630万人、60%が仏教徒である敬謙な信者の多いお国柄である。私たち一行は大河メコンを上るように山里へと向かった。水田と木々に囲まれた村に入ると体格も表情も日本人に似た穏やかな村人達に迎えられた。家々は昔ながらの高床式。私たちはこの村の有力者のお宅でお世話になった。

ラオスは米と魚の国、主食のカオニャオはインディカ種のもち米である。日々の食事にはある程度の組み合わせがあるようであった。竹籠の中のもち米、魚などの焼き物、ひょうたんやたけのこのスープ、辛くて旨みのあるディップのジャオ。川で獲った魚と近くで採れた新鮮で多彩な野菜や木の葉の類は唐辛子と小魚を発酵させた旨みたっぷりの魚醤、パクチーなどの香草類、ココナッツなどを使って時間をかけて料理する。たんぱく源としてスズメバチの幼虫、コオロギ、カブト虫などの昆虫類も食す。栄養面も質的にもバランスのとれた、自然の恵みを存分に生かした工夫と滋養に満ちた食事は、どれも

私達の口にあって格別のおいしさであった。先程まで生きていた食べ物の元気をいただいて身体も精神もみずみずしく保たれるのであろうか、村人は皆健やかで身体はひきしまって見えた。

食事や生活を整えるという大切な作業に丁寧に向き合い、伝統的な暮らしの中でほぼ自給自足が成り立っている彼らの生き様はみごとである。かつては日本人もこのように生きたのではないだろうか。ここにも西洋からの便利な文明が流れ込み、生活は少しずつ変わりつつある。伝統的な暮らしを大切につないで生きることは簡単ではない。

帰国すると台風の後の風が吹き、日本の空は秋色。数日間の祈りと調和の生活は命の保養となり、心も体も新生されたようである。



2011年度 公 開 講 座

今年も好評「教養講座」

今年で25回目を迎えた教養講座は、それぞれ分野の異なる4つの講座を開講しました。

10月18日(火)は、「書くこと生きること～作品に編んだ作家の思い～」というタイトルで児童文学作家の今関信子さんが、自分の体験も交えて、書くことについての心構えや、テーマの探し方、読み方などについて、時折笑いがおきるほど終始明るくなごやかな雰囲気の中、講演を進めていました。続いて本学の生活学科の佐伯行一特任教授が、「お酒のはなし」というタイトルで「百薬の長」といわれるお酒に関するさまざまな興味深いトピックや学問的知見を講演されました。講演後には、沢山の質問があり、参加者の関心の高さをうかがわせていました。

10月21日(金)は「笑顔を運ぶウクレレ音楽」というタイトルで、ミュージシャンfulare_padの前田大輔さん、清水英之さんにより、ハワイ生まれの小さな楽器であるウクレレの講演が行われました。他県から駆けつけた熱心なファンの姿もみられました。ウクレレの歴史に関してのお話の後には、参加者も実際にウクレレに触れ、簡単なコードを習得して、「蛙の歌」の演奏を全員で行うなど、楽しく講演は進められました。最後はミニコンサートが

行われ、予定時間をオーバーするほどの盛り上がりを見せ終了しました。続いて行われた「くらしの安心と安全を考える」ではNPO法人京都防犯鑑定協会理事長大久保和雄さん、鑑定士江上靖男さん、荻野勝さんから、我が家の安心・安全対策、多発する詐欺（振込み詐欺等）被害の防止対策、親と子供の安心・安全対策等についてのお話があり、参加者は熱心に聞き入っていました。また防犯用のシールや資料が配布されました。講演後、参考になったので、友達に配りたいと、資料を何部か持ち帰る参加者もおられました。

今回の講座は、いずれも参加者には好評であったように思われます。

来年度の講座に期待する声も多くよせられています。今後も参加者に支持されるような教養講座を企画したいと考えています。



笑顔を運ぶウクレレ音楽

こども英語教室 —Let's Enjoy Kids English—

平成23年度の子どもの講座では夏休みの2日間を通して英語教室を開講しました。本講座には小学校1年生から5年生までの笑顔いっぱいの元気な生徒さん達が参加しました。

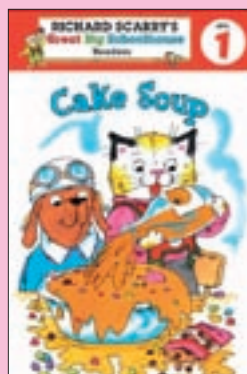
8月10日(水)には初対面の友達との簡単な挨拶の方法と数の数え方を通した語彙力の強化を行ないました。また、絵本の読み聞かせや体を動かしながら歌を歌うなど、楽しみながら英語に触れることを重視しました。読み聞かせではErica Farber氏の作品である“Cake Soup”という米国の絵本を読みました。友人のお誕生日会のために仲間達がスープのような、めちゃくちゃなケーキを作りお祭り騒ぎをするというお話です。読み終わる頃には生徒さんたちが“Oh, my god!”（なんてことだ!）と言いながら、お祭り騒ぎをしていました。

8月11日(木)には1日目の復習を行ないつつ、日常のなかで友達と挨拶を交わす方法や色を使った簡単な会話な

ビジネスコミュニケーション学科 講師 末澤 亜矢子

どを行ないました。この日はチームに分かれて英語でスーパーボールの色を当て合うゲームで盛り上がりました。自然な英語での表現をできるだけ習得してほしいという願いから“so-so”（まあまあ）などの、ジェスチャーと英語を組み合わせて使う表現も教えましたが、この表現を初めて知った生徒さん達もすぐに手のひらを下に向けてヒラヒラとさせながら上手に言葉を使いこなすので、その姿に感心するばかりでした。

本講座は基本的に全て英語で行ない、英語に戸惑う生徒さんには随時、日本語に訳すというかたちで行ないました。生徒さん達の学習意欲が溢れる教室で2日間の講座を開講できたことを大変嬉しく思います。



「来年も継続を」の声が多いステップアップ講座

広報・図書委員 教授 小山内 幸治

14回目を迎えた今年のステップアップ講座が、「楽しく作るパンの時間～基本からヨーロッパ伝統パンまで その(5)～」、「書道教室」、「手づくりしましょう～着物地で作るコート～」、「陶芸教室」および「さあはじめようハングル講座」の5つの分野で開催されました。

本学の金丸政義非常勤講師による「楽しく作るパンの時間」は、毎年心待ちにしている参加者が多く、今年も天然酵母を使用したヨーロッパ伝統のパン作りを行いました。参加者は、「効率よく多種類のパンが作れて楽しかったです。」と感想を述べていました。読売書法会幹事の奥村祥香先生による「書道教室」では漢詩や和歌の作品を軸装や額装にすることにも挑戦し熱心に取り組んでいました。本学生活学科の成田巳代子教授による「手づくりしましょう」では、タンスに眠っている着物地などを利用して単衣のコートを作成しました。受講者は「先生の親切なご指導がありがたかったです。」と感想を述べてい

ました。本学の深尾秀一非常勤講師が担当した「陶芸教室」は、参加者が熱心に取り組み、「時間が足りないので、来年はもう一日日程を延ばして欲しい」との要望も多く寄せられています。姜智娜先生による「韓国語」では、映画やドラマも利用し楽しく韓国語を学んでいました。

ステップアップ講座は、継続開講の要望も多く、また新しい講座の開設の要望も寄せられているので、これらを勘案して来年度も充実した講座を開催したいと考えています。

「手づくりしましょう」のメンバーの皆さん



滋賀短期大学・滋賀医科大学共催公開講座

広報・図書委員 特任教授 佐伯 行一

本学と滋賀医科大学との共催公開講座が8月20日（土）に本学で開催されました。「講演の部」として、滋賀医科大学臨床看護学講座渡邊浩子教授による『見直そう、あなたの食生活：将来、元気な赤ちゃんを産むために！』と題してのお話がありました。近年注目を集めているビタミンの葉酸をテーマに“若い女性のやせの問題”にはじまり、“胎児の発育におよぼす葉酸の影響”から“成人病は胎児期に発症する”というパーカー説の紹介、“成人疾患と葉酸”と最新の話題も含めてわかりやすくお話し頂きました。

「調理実習の部」では、講演に関連して『食事で健康！未来に備えてスローフードエブリデー』をテーマに、中平真由巳准教授をはじめとして生活学科の先生方の指導

のもとに、サークル「キッチンキッチン」に所属する学生の協力をえて、朝・昼・夜と3食分の献立を調理し、盛りつけた後、参加者全員で味わっていただきました。

「講演の部」には45名の受講者があり、講演の部の受講者の中から15名の方が「調理実習の部」に参加されました。今年は渡邊先生の演題によるとおもわれますが、高齢者に混じって本学附属高校の生徒さんをはじめとして若い女性の参加が目立ちました。また、受講者にお願したアンケートの集計結果によりますと、大変好評で、今後取り上げてほしいテーマなどを含めて数多くのご意見をいただきました。今回この共催講座は3回目を終えましたが今後この講座をますます充実・発展させていく必要性を強く感じました。



学校法人純美禮学園 法人本部報告

平成22年度決算状況報告

学校法人純美禮学園の平成22年度決算は、公認会計士の監査、学園監事の監査、理事会・評議員会の承認を得て、確定いたしましたので報告いたします。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入、消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにし、貸借対照表は、本学園の年度末の資産状況を明らかにするものであります。

消費収支決算における、本年の収支差額は6,929千円の消費支出超過額となり、貸借対照表の純資産((A)－(P))は、高等学校の耐震補強工事及び情報教育機器の更新等による固定資産の増加や現預金等の増加等による流動資産が増加と、一方、負債は、高等学校の耐震補強工事に伴う借入等により増加となったが、前年度末より130,544千円増加して4,055,792千円となりました。

消費収支計算書

1. 消費収入の部 単位：千円

科 目	年度等	平成22年度決算額
学生生徒等納付金		1,106,492
手数料		40,037
寄附金		5,741
補助金		460,400
資産運用収入		19,355
資産売却差額		3,649
事業収入		5,499
雑収入		43,570
帰属収入合計 (A)		1,684,743
基本金組入額合計 (B)	△	137,473
消費収入の部合計 (C)		1,547,270

2. 消費支出の部

人件費	1,073,230
教育研究経費	386,533
管理経費	85,613
借入金等利息	5,952
資産処分差額	1,618
徴収不能引当金繰入額	1,253
消費支出の部合計 (D)	1,554,199

3. 消費収支差額

収支差額 (C)－(D)	△	6,929
前年度繰越消費支出超過額 (△)	△	2,038,908
翌年度繰越消費支出超過額 (△)	△	2,045,836

貸借対照表

単位：千円

科 目	年度等	平成22年度末
資産の部	固定資産	[4,383,396]
	有形固定資産	(3,107,824)
	土地	333,352
	建物	2,303,330
	構築物	58,281
	機器備品	148,017
	図書	263,667
	車輛	1,177
	その他の固定資産	(1,275,572)
	引当特定資産	1,274,826
	電話加入権他	746
	流動資産	[520,474]
	現金預金	446,985
負債の部	未収入金	71,779
	貯蔵品他	1,710
	資産の部合計 (A)	4,903,870
	固定負債	[455,884]
	長期借入金	284,840
	退職給与引当金	171,044
	流動負債	[392,194]
	短期借入金	32,770
	未払金	13,313
	前受金	321,683
	預り金	24,428
	負債の部合計 (P)	848,078
	基本金 (C)	6,101,628
	消費収支差額 (G)	△ 2,045,836
	(P) + (C) + (G)	4,903,870

■主要財務比率の経年比較

比 率	算式 (×100)	平成18年度 (決算)	平成19年度 (決算)	平成20年度 (決算)	平成21年度 (決算)	平成22年度 (決算)
人 件 費 比 率	人 件 費／帰属収入	77.2%	78.6%	74.2%	67.1%	63.7%
消 費 支 出 比 率	消費支出／帰属収入	107.4%	114.1%	106.5%	95.5%	92.3%
流 動 比 率	流動資産／流動負債	58.7%	84.8%	98.9%	123.4%	132.7%

平成23年度開催の理事会・評議員会

平成23年度のこれまでに開催された理事会（役員会）及び評議員会の概要を報告いたします。提案された議案は、理事及び評議員により審議され、全て原案のとおり可決されました。

なお、この他に理事長、短期大学長、高等学校長及び幼稚園長の各理事計4人による常任理事会を4回開催しております。

<法人本部>

開催日時	理事会（役員会）の議案・報告事項	開催日時	評議員会の議案・報告事項
5月30日 13時30分	議案 1. 平成22年度事業報告について 2. 平成22年度決算について 3. 平成22年度監査報告について 報告 短大・高校・幼稚園の現況	5月30日 15時30分	議案 1. 平成22年度事業報告について 2. 平成22年度決算について 3. 平成22年度監査報告について 報告 短大・高校・幼稚園の現況
7月6日 18時00分	議案 1. 附属高等学校の学費改定について 2. 滋賀短期大学附属高等学校学則の一部改正について		

短期大学行事等開催状況 (平成23年6月～11月)

(総務課に届け出のあったものの一部を掲載しています。：短大事務局)

6月

- 2日(木) 6月教授会／広報・図書委員会
- 4日(土) MOS講座
- 5日(日) 教育懇談会／ホーム・カミングデー
- 7日(火) ビジネス検定対策講座
- 9日(木) 学生支援委員会
- 11日(土) MOS講座
- 13日(月) 教務委員会
- 14日(火) ビジネス検定対策講座
- 16日(木) 生活科会／幼教科会／ビジコミ科会
- 18日(土) 水曜日指定授業/MOS講座
- 20日(月) 入試説明会(京都)
- 21日(火) ビジネス検定対策講座／公務員対策勉強会
- 23日(木) 体育大会(於：県立体育館)
- 25日(土) 木曜日指定授業/MOS講座
- 28日(火) 入試説明会(草津)／ビジネス検定対策講座
- 30日(木) 入試説明会(本学)／企画委員会／教務委員会

7月

- 1日(金) 入試説明会(彦根)
- 2日(土) 第1回リーダーズ・トレーニング(ビアンカ)
- 7日(木) 7月教授会
- 8日(金) 近畿厚生局 栄養士養成施設指導調査
- 9日(土) 保育内容表現発表会／公務員対策講座
- 10日(日) 公務員模試
- 11日(月) 教務委員会
- 14日(木) IT-WG／学生支援委員会／広報・図書委員会
- 15日(金) 補講日／金曜日指定授業
- 16日(土) オープンキャンパス(1回)
- 18日(月) 月曜日指定授業
- 21日(木) 生活科会／幼教科会／ビジコミ科会
- 22日(金) 京滋私立短期大学庶務事務担当者懇談会
- 28日(木) 企画委員会／実習委員会
- 31日(日) オープンキャンパス(2回)

8月

- 3日(水) 部局長懇談会
- 6日(土) オープンキャンパス(3回)
- 8日(月) 夏期休業(～9月19日(月))／AO事前面談(Ⅰ期)／こどもの講座(小学生こども陶芸教室・こども書道教室)／ステップアップ講座(書道教室)
- 9日(火) AO事前面談(Ⅰ期)／ステップアップ講座(楽しく作るパンの時間)
- 10日(水) こどもの講座(こども英語教室)
- 11日(木) 生活科会／こどもの講座(こども英語教室)／ステップアップ講座(楽しく作るパンの時間)
- 20日(土) 滋賀医科大学との共催公開講座「見直そう、あなたの食生活：将来、元気な赤ちゃんを産むために！」「食事で健康！未来に備えてスローフードエブリデー」
- 21日(日) オープンキャンパス(4回)
- 22日(月) 石山中学校職員対象マナー講座／こどもの講座(小学生こども陶芸教室・こども書道教室)／ステップアップ講座(楽しく作るパンの講座・書道教室)
- 24日(水) 教職員健康診断／ビジコミ科会／ステップアップ講座(楽しく作るパンの時間)
- 28日(日) AO事前面談(Ⅱ期)
- 29日(月) AO事前面談(Ⅱ期)／幼教科会／こどもの講座(小学生こども陶芸教室・こども書道教室)／ステップアップ講座(書道教室)

9月

- 1日(木) 科目等履修生試験／教務委員会
- 5日(月) ステップアップ講座(陶芸教室)
- 6日(火) ステップアップ講座(手づくりしましょう・さあ はじめよう ハングル講座)
- 8日(木) 企画委員会／ビジコミ科会
- 9日(金) 科目等履修生 試験／ステップアップ講座(手づくりしましょう)
- 10日(土) オープンキャンパス(5回)
- 12日(月) ステップアップ講座(書道教室)
- 13日(火) ステップアップ講座(手づくりしましょう・さあ はじめよう ハングル講座)
- 15日(木) 9月教授会／幼教科会／広報・図書委員会

- 16日(金) ステップアップ講座(手づくりしましょう)
- 20日(火) 前期成績交付／教務オリエンテーション／第2回リーダーズ・トレーニング／ステップアップ講座(さあ はじめよう ハングル講座)
- 22日(木) 第1回就職ガイダンス／生活科会／学生支援委員会
- 24日(土) 前期再試験／AO事前面談(Ⅲ期)
- 25日(日) AO事前面談(Ⅲ期)
- 26日(月) 後期授業開始／ステップアップ講座(書道教室・陶芸教室)
- 27日(火) 日本医師会認定医療秘書養成に係る運営準備委員会(大津プリンスホテル)／臨時教授会／ステップアップ講座(さあ はじめよう ハングル講座)
- 28日(水) 日本医師会から学校見学
- 29日(木) 基本事項検討委員会
- 30日(金) 9月卒業式／石山中学校生徒対象マナー講座

10月

- 3日(月) 石山中学校生徒対象マナー講座／ステップアップ講座(書道教室)
- 4日(火) ステップアップ講座(さあ はじめよう ハングル講座)
- 5日(水) 美しい日本語コンクール「読み聞かせ部門Ⅱ回生」
- 6日(木) 10月教授会
- 7日(金) 石山中学校生徒対象マナー講座／コミュニケーション検定講座／美しい日本語コンクール「朗読部門Ⅰ・Ⅱ回生」「読み聞かせ部門Ⅰ回生」
- 8日(土) MOS講座／公務員対策講座
- 11日(火) ステップアップ講座(さあ はじめよう ハングル講座)
- 13日(木) 教務委員会／学生支援委員会／広報・図書委員会
- 14日(金) コミュニケーション検定講座／日本医師会認定医療秘書養成課程に係る記者会見
- 15日(土) 第1回医療秘書士認定試験／第1回医事管理士試験／MOS講座／公務員対策講座
- 17日(月) ステップアップ講座(書道教室)
- 18日(火) 教養講座
- 19日(水) 甲西高校来学
- 20日(木) 防災訓練／生活科会／幼教科会／ビジコミ科会／学生支援委員会
- 21日(金) コミュニケーション検定講座／教養講座
- 22日(土) 公募制推薦入試(前期)・AO入試・スポーツ特技推薦入試(1期)・専願特別推薦入試
- 23日(日) 公募制推薦入試(前期)・AO入試・スポーツ特技推薦入試(1期)・専願特別推薦入試
- 25日(火) ステップアップ講座(さあ はじめよう ハングル講座)
- 26日(水) 臨時教授会
- 27日(木) 企画委員会
- 28日(金) コミュニケーション検定講座
- 29日(土) MOS講座／公務員対策講座
- 31日(月) ステップアップ講座(書道教室・陶芸教室)

11月(予定も含む)

- 1日(火) 臨時生活科会／ステップアップ講座(さあ はじめよう ハングル講座)／学生募集委員会
- 3日(木) MOS講座
- 4日(金) コミュニケーション検定講座
- 5日(土) MOS講座／公務員対策講座
- 8日(火) ステップアップ講座(さあ はじめよう ハングル講座)
- 10日(木) 11月教授会
- 11日(金) 純美禮祭
- 12日(土) 純美禮祭／秋のオープンキャンパス
- 14日(月) ステップアップ講座(書道教室)
- 15日(火) ステップアップ講座(さあ はじめよう ハングル講座)
- 17日(木) 生活科会／幼教科会／ビジコミ科会
- 18日(金) コミュニケーション検定講座
- 19日(土) 公務員対策講座
- 20日(日) MOS講座
- 24日(木) 企画委員会／広報・図書委員会／学生支援委員会／教務委員会
- 25日(金) コミュニケーション検定講座
- 26日(土) 公募推薦入試(後期)・スポーツ特技推薦入試(Ⅱ期)
- 27日(日) MOS講座
- 28日(月) ステップアップ講座(書道教室)

図書館だより

図書館係長 丸谷 知子

夏休みに私立短期大学図書館情報担当者研修会に行ってきました。会場が仙台ということもあり、東日本大震災の状況やボランティア体験の話聞くことができました。やはり、熱気の違いを肌感じました。講演のひとつに図書館の安全性も取り上げられ、また、短期大学図書館の自己点検・評価に関する研究の報告も受けました。大変有意義な研修会でした。

しかし、一番印象に残ったのは、金子みすゞ記念館館長矢崎節夫氏の記念講演「みんなちがって、みんないい。－金子みすゞさんのうれしいまなざし－」でした。テレビCMでの「こたまでしょうか、いいえ、誰でも。」の詩は皆さんご存知でしょうか。矢崎氏は、金子みすゞとは「私とあなた」ではなく「あなたと私」を80年前に言った人であると、彼女の詩を読みながら説明されました。「自分」とは自然の分身である、「優しい」とは憂いを持つ人に寄り添う人である、金子みすゞはそのような思いで詩を書いたそうです。「私がさびしいときに、仏さまはさびしいの。」と詩を読まれた時には会場は静まり返りました。金

子みすゞの詩は世界各国に翻訳されているそうです。「あなたと私」のまなざしが広がれば、争いごと減るでしょうね。

本学の図書館にも、金子みすゞの詩集があります。学生・教職員はもちろんのこと、旧教職員・卒業生の方も貸出しますので、是非、利用してください。

貸出期間・・・旧職員 5冊 1月以内

卒業生 5冊 1月以内



KDKファッショングランプリ コンテストに入賞して

生活学科 生活クリエイイトコース 2回生 青山 美和

今年のテーマは「ミューズと出会う」でした。テーマからデザインをおこし、製作する作業は初めての体験でしたので、本当にドレスが完成するのかとても不安でした。

でも先生の指導のもとに、段々と出来上がってくると、もっともっとと良くなる方向に欲が出て、意欲的に製作に取り組むことができました。真っ赤な別荘のロングドレスに約千個のスワロフスキーをちりばめ、女神のイメージを演出しました。

二次審査の結果発表で京都新聞社賞と聞いた時は、うれしくて、今までの苦勞がどこかへ飛んでいきました。2回生の夏休みはこのドレス作りに明け暮れた感じですが、学生時代のいい思い出を作ることができました。また、京都府会館でのファッションショーも貴重な体験でした。

他に居川優希さん（生活クリエイイトコース2回生）が京都既製服工業組合賞、西村夏弥さん（非常勤職員）が京都百貨店賞を受賞しました。



右端が筆者

第36回全国大学版画展に 本学から2名推薦

幼児教育保育学科 教授 櫻井 貞夫

大学版画学会主催の全国大学版画展は、大学における版画教育の進歩発展を図ることを目的に、毎年開催されています。東京藝術大学はじめ、全国の美術系大学版画専攻学生の版画作品を集めた大規模な展覧会で、年々レベルアップしています。本学からも、授業作品134点の中から厳選し、2名の作品を推薦しました。

日時：2011年年12月3日(土)～12月18日(日)

会場：東京都町田市立国際版画美術館

出品学生：幼児教育保育学科2回生 清川みずき

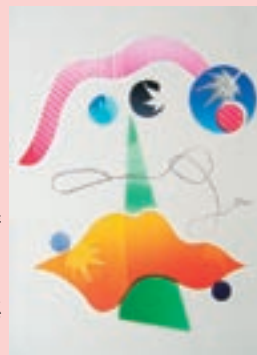
作品タイトル； Gentleman

テクニック；ステンシル&転写

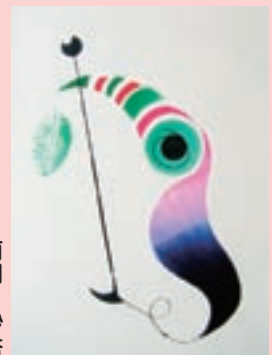
幼児教育保育学科2回生 前田紗杏

作品タイトル； Galapagos

テクニック；ステンシル&転写



清川
みずき



前田
紗杏

滋賀短期大学 学報

2011年12月1日 No. 70

〒520-0803 大津市竜が丘24-4 滋賀短期大学 広報・図書委員会 電話(077)524-3605

HP：<http://www.sumire.ac.jp/tandai/>